

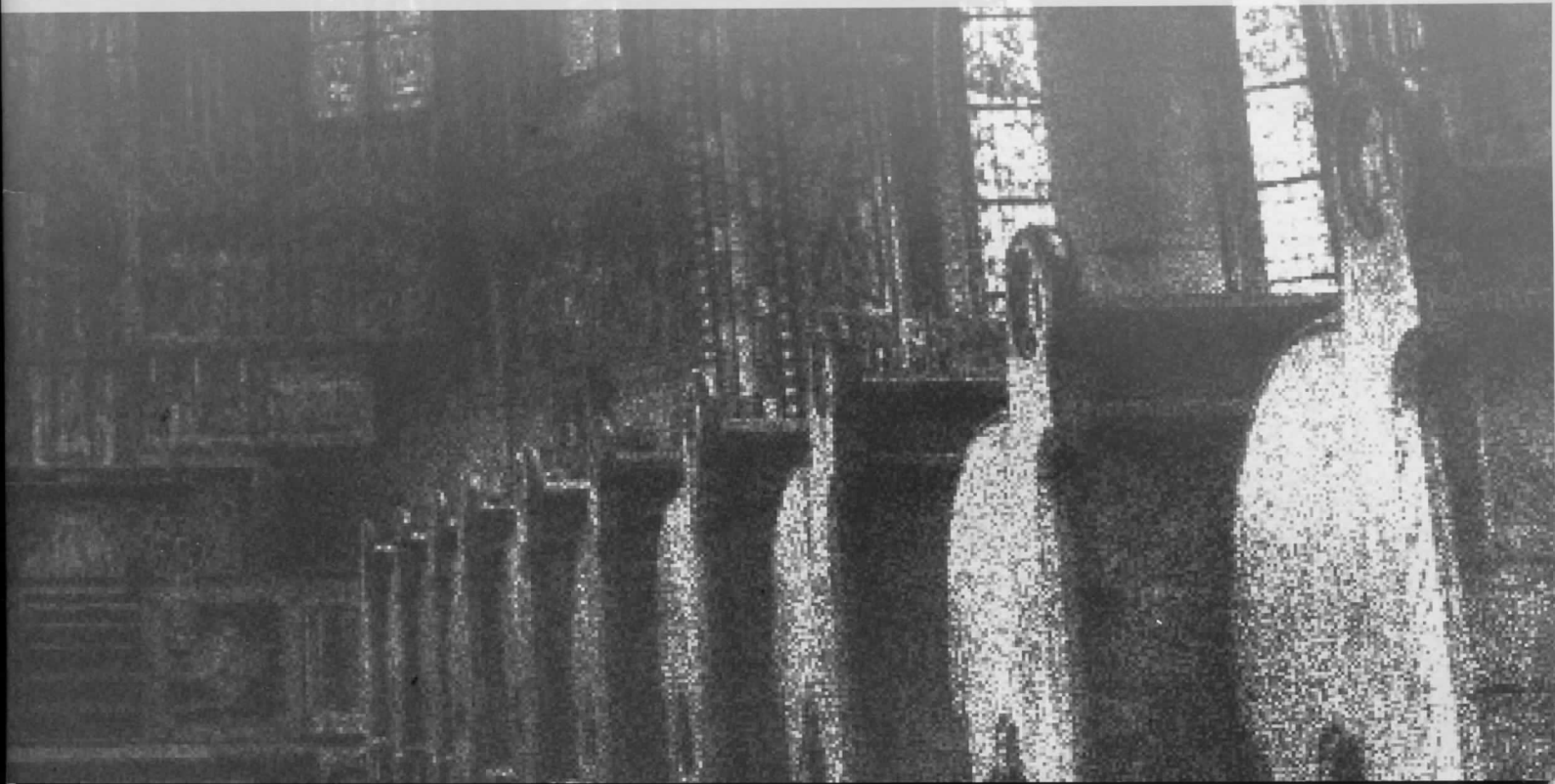
京都混声合唱団
創立 90 周年記念演奏会

JOHANNES BRAHMS

EIN DEUTSCHES
REQUIEM

2016.7.18
AT KYOTO CONCERT HALL

主催 京都混声合唱団
後援 京都市 京都市芸術文化協会
助成 芸術文化振興基金 



ご挨拶

祇園ばやしの優雅な響きが、京の街に盛夏の始まり告げています。本日はお暑い中、京都混声合唱団の創立 90 周年記念演奏会にお越し頂き厚く御礼申し上げます。

弊団は、昨年に常任指揮者の交代という四半世紀ぶりの大きな節目を迎え、本日の記念演奏会は新生京混として初の演奏会となります。また、本日演奏いたしますブラームス「ドイツ・レクイエム」は弊団としては永い歴史の中でも初の演奏となり、団員一同、全てに気持ちを新しくして、新常任指揮者の小玉先生による熱の入った練習に取り組んで参りました。

また、本日は名誉指揮者となられました蔵田先生の指揮により、復刻特別ステージとして、70 周年記念演奏会で取り上げましたハイドン「四季」より 4 曲を抜粋し、当時のステージの雰囲気も再現して演奏いたします。

時代は移り変われども、歴史を受け継いで今後も活動をしていく所存でございます。どうぞ忌憚なきご叱声・ご教示を頂きますと共に、今後とも弊団への温かいご支援をお願い申し上げます。

平成 28 年 7 月 18 日

京都混声合唱団



プログラム

第 1 部

F. J. ハイドン作曲
「四季」より抜粋

Franz Joseph Haydn
Die Jahreszeiten

指揮 蔵田 裕行 バリトン 小玉 晃

休 憩

第 2 部

J. ブラームス作曲
ドイツ・レクイエム

Johannes Brahms
Ein deutsches Requiem

野々村彩乃 (ソプラノ) 三原剛 (バリトン)

指揮 小玉 晃

管弦楽 京都フィルハーモニー室内合奏団

合唱 京都混声合唱団

90 years

京混の歴史

▶1925 (大正14) 年～1944 (昭和19) 年

1925 年頃、京都在住の東京音楽学校 (現東京芸術大学音楽学部) 第1期生ら音楽の専門家中で、「音楽らしい音楽を京都に」という声が高まり、翌 '26 年、京都在住の「同声会」(東京音楽学校同窓会) メンバーとともに混声合唱団が誕生しました。第1回発表会の開催は '27 年 11 月 19 日。その後は定期演奏会や大阪朝日新聞社主催によるいくつもの記念音楽祭に出演。NHK 京都放送局でラジオ出演もしました。'29 年にソ連出身のエフゲン・クレーンを指揮者に迎えたのを機に宗教曲やオペラなどの大曲への取り組みが始まり、のちの京混の活動スタイルの基礎が築かれていきました。

'36 年に起きた「二・二六事件」とともに忍び寄る戦争の足音。音楽をはじめ文化活動へ締めつけも厳しさを増す中で、当団と京都音楽連盟コーラス団が合同して「京都合唱団」を結成しました。'39 年、第二次世界大戦勃発。'41 年、太平洋戦争開戦。欧米音楽の演奏が排斥されていくなか、'43 年には「京都合唱報国団」という名で演奏会を開催しました。やがて戦局は激しさを増し、メンバーも日を迫って減少。やむなく自然休団となりました。

▶1945 (昭和20) 年～1963 (昭和38) 年

終戦直後は楽譜を印刷する紙の入手さえ困難でしたが、徐々にメンバーを呼び戻して活動を再開、'46 年には「第1回関西合唱コンクール・混声の部」で優勝。'47 年には戦後初めての演奏会を開催しました。この年に人文学園合唱団、京都市民合唱団と合同し、新生・京都混声合唱団として新たなスタートを切りました。'51 年には、当団も加わった京都合唱連盟が関西交響楽団 6 月定演に参加、京都の合唱団による初演となる「第九」を演奏しました。同年 8 月には当団単独で関西初演となるフォーレの「レクイエム」を演奏、NHK 京都放送局によって全国に中継放送されました。

'51 年、永年にわたり当団を指導・指揮してきた森本芳雄が急逝し、翌年に青山政雄を指揮者に迎えました。戦後の経済復興が進むにつれ合唱活動も盛んとなり、数々の音楽会に出演しました。'63 年には、京都楽壇育ての親ともいえる当団創立メンバー・稲畑登美子の「京都文化団体懇話会受賞記念音楽会」(京都音楽協会主催) に出演しました。



昭和千年代の演奏会



創立初期のメンバー

▶1964 (昭和39) 年～1990 (平成2) 年

青山政雄の離京に伴い、暫くは団員の牛丸紘一などの指揮によって演奏活動を続ける中、'64 年に京都府合唱連盟主催の第1回「合唱祭」に出演、'66 年には元団員の伊吹新一を、'70 年からは再び青山政雄を指揮者に迎えました。'75 年には、創立 50 周年記念演奏会を京都市交響楽団の伴奏で開催、この演奏会で歌ったロシア民謡はテーチクレコードから LP として発売されました。'82 年には、京都音楽家クラブの藤堂顕一郎音楽褒賞基金から、第1回の表彰(団体)を受けました。'85 年には創立 60 周年記念演奏会を開催。これを機に、団員の金子清明編纂による『京都混声合唱団 60 年史』を刊行しました。

▶1991 (平成3) 年～2015 (平成27) 年

'91 年、蔵田裕行 (現名誉指揮者) を常任指揮者に迎え、翌 '92 年、ハイドン「天地創造」を上演。'96 年には、前年にオープンした京都コンサートホールで創立 70 周年記念演奏会を開き、ハイドン「オラトリオ 四季」を上演しました。同年には当団の永年の活動が認められ、京都新聞社から同社五大賞の一つ「社会賞」を受賞しました。2000 年には創立 75 周年記念演奏会としてヘンデル「メサイア」、'02 年には京都市立芸術大学音楽学部創立 50 周年を祝う特別演奏会としてベートーベン「荘厳ミサ」、'05 年の創立 80 周年記念演奏会ではバッハ「ロ短調ミサ」、'10 年の 85 周年演奏会ではモーツァルト「レクイエム」の演奏を行いました。この期間には、近郊市町村への演奏旅行や小曲の構成によるピアノ伴奏だけの定期演奏会にも取り組み始めました。また、「こうもり」(演奏会形式)「フィデリオ」とオペラの舞台に参加したことも貴重な経験となりました。'09～'11 年は連続して京都フィルハーモニー室内合奏団の「第九」に参加。2013 年には、びわこアークオーケストラ合唱団との合同演奏会を開催し、メンデルスゾーン「エリヤ」の演奏を行いました。'15 年、24 年間もの長期にわたり当団を指揮した蔵田裕行が退任、当団の歴史の中で最長の連続指導期間を務められたことに敬意を表し、同氏を初代の名誉指揮者としました。

▶2015 (平成27) 年～

'15 年、小玉晃を新常任指揮者として迎え、新生京都混声として新たな歴史をつなげていきます。

「ドイツ・レクイエム」

レクイエムと呼ばれる曲はその冒頭 Requiem aeternam dona eis, Domine (主よ、永遠の安息を彼らに与え給え) の最初の歌詞からそのように呼ばれるようになっていますが、正式には「死者のためのミサ曲」というカトリック教会のミサ曲であり、ラテン語で書かれた定められた言葉を歌います。

しかし、ブラームスの「ドイツ・レクイエム」(より正しくは「ドイツ語レクイエム」)ではプロテスタント教会に属していたブラームスが宗教改革者マルティン・ルター訳のドイツ語聖書から自身で選んだ言葉を用いています(ブラームスは曲名「ドイツ語レクイエム」のあとに「聖書の言葉による」とわざわざ記しています)。そして、「死者のための」と言うよりは死者を送って「この世に残された者」への慰めを歌っています。歌詞の中に Jesu や Christe といったイエス・キリストを示す言葉が一つもなく、キリストの十字架や復活に直接的に触れていないという特徴もあります(ブラームス自身が、「キリストの復活に関する部分は注意深く除いた」と語ったとされています)。

全部で7楽章から成りますが、第1楽章の歌い出しの言葉が Selig であり、第7楽章も selig で終わっている、曲全体がいわば selig に包まれた音楽とも言え

ます。第1楽章では新約聖書の中でイエス・キリストの「山上の説教」と言われる個所の8つの「幸い」の2つ目の「幸い」を歌っています。歌い出しの Selig sind は日本語の聖書では「幸いである」と訳されていますが、この「幸い」は単純な幸いではなく、「これ以上ない幸せ(至福)」を表しており、すべてを支配される神がこの世に残された者に与える「豊かな慰め」を全身で感じ取っている状態(信仰的に言うなら「神に祝福された状態」と考えて良いと思います)。

ブラームスが最後に書き上げた第5楽章を含めた全曲を完成したのは彼が35才の1868年であり、この1曲によって彼は19世紀の大作作曲家たちの仲間入りをした、いわば出世作です。

ドイツ語で歌うレクイエムの構想はブラームスの音楽の師であるロベルト・シューマンにあるともいわれますが、そのシューマンが没した翌年に「ドイツ・レクイエム」の第2楽章が草案され、その後しばらくの時をおいてブラームスの母親の死を契機として、その後4年でこの大曲を完成しています。

近年この曲があちこちで歌われるのも、それだけこの世が selig でありたいと願っているからではないでしょうか。

オラトリオ「四季」

オラトリオ「四季」は、「天地創造」と並びハイドンの傑作とされる作品です。春夏秋冬とオーストリアの素朴な農村生活の四季を通して、自然と人間への賛歌、すなわち創造主である神への感謝を表現しました。ハイドンはこの曲にジグシュピール(ドイツの歌芝居)の要素を取り入れ、レチタティーヴォ、アリアそして合唱という構成の中で、歌い手は農民の生活を知らせる説明者の立場と演技者の役目を兼ね、いきいきとその情景を描きだしています。今回は、全39曲の中から4曲選んで演奏します。

最初の No.2 は「来たれ、やさしき春よ」と村人たちの期待を込めた合唱です。長い冬も終わりに近づき、春の訪れを心待ちしているさまを歌っています。

No.4 は四季のなかでもよく知られているアリアです。農夫シモン(バリトン)が「口笛を吹きながら畑仕事にでかけ、種を蒔く。その種はやがて黄金の実を結ぶ」と軽快に歌います。親しみやすいこの曲では、ハイド

ンの交響曲第94番「驚愕」第2楽章のテーマが使われています。

No.26 は村人と狩人の合唱です。角笛を模したホルンが響きわたり、躍動感あふれる狩の場面が展開され、ついには最高潮に達します。騎手たちが猟犬を駆り立て、鹿を追いつめ、そして仕留める。西洋の油絵などで見たことのある情景を描いています。

最後の No.28 では「万歳、万歳、ブドウ酒だ」と収穫の喜びと大地への感謝を表わしています。お祭りの様子を、豪放で野趣あふれる曲で表現していますが、これから長い冬が待っているのを知る者たちの「今」ならではの、喜びの歌と言えましょう。ここでは様々な古楽器が奏でられています。歌の中に出てくる Pfeifen (笛)、Trommel (太鼓)、Fiedel (バイオリン)、Leier (手回しオルガン)そして Bock (バグパイプ)と。ぜひお聞き取りいただけたらと思います。

第1部

F.J. ハイドン

オラトリオ「四季」より

2. CHOR (LANDVOLKS)

Komm, holder Lenz,
 des Himmels Gabe, komm!
 Aus ihrem Todesschlaf
 erwecke die Natur!
 Er naht sich, der holde Lenz.
 Schon fühlen wir den linden Hauch;
 bald lebet alles wieder auf.
 Frohlocket ja nicht allzufrüh,
 Oft schleicht, in Nebel eingehüllt,
 der Winter wohl zurück, und streu't
 auf Blüt' und Keim sein starres Gift.
 Komm, holder Lenz,
 Des Himmels Gabe, komm!
 Auf uns' re Fluren senke dich!
 O komm, holder Lenz, o komm
 und weile länger nicht!

4. ARIA (SIMON)

Schon eilet froh der Ackermann
 zur Arbeit auf das Feld,
 in langen Furchen schreitet er
 dem Pfluge flötend nach.
 In abgemeß'nem Gange dann
 wirft er den Samen aus,
 den birgt der Acker treu
 und reift ihn bald zur goldnen Frucht.

2. 合唱 (村人たち)

来たれ、やさしき春よ！
 天の恵みの春よ、来たれ！
 死の眠りから
 自然を目覚めさせたまえ！
 心地よい春がやってきます
 もうすぐそこに、穏やかな息吹を感じます
 やがて全てが命をとりもどすでしょう
 いや、喜ぶにはまだ早い！
 霧に隠れ、忍び足で
 冬は突然戻ってきて、蕾や芽を
 氷の毒で枯らしてしまう！
 来たれ、やさしき春よ！
 天の恵みの春よ、来たれ！
 我らの畑に降り立ちたまえ
 おお、来たれ！やさしき春よ
 もうためらわずに！

4. アリア (シモン)

さっそく農夫は楽しげに
 畑仕事へ出かけていく
 長い畝間を耕しながら
 口笛軽く進んでいく
 そして規則正しい足取りで
 せっせと種を蒔いていく
 忠実な畑に育まれ
 種はやがて黄金の実を結ぶ

26. CHOR (LANDVOLK UND JÄGER)

Hört das laute Getön,
das dort im Walde klinget!
Welch ein lautes Getön
durchklingt den ganzen Wald!
Es ist der gellenden Hörner Schall,
der gierigen Hunde Gebelle.
Schon flieht der aufgesprengte Hirsch;
ihm rennen die Doggen und Reiter nach.
Er flieht, er flieht!
O wie er sich streckt!
Ihm rennen die Doggen und Reiter nach.
O wie er springt! O wie er sich streckt!
Da bricht er aus den Gesträuchen hervor
und läuft über Feld in das Dickicht hinein.
Jetzt hat er die Hunde getäuscht;
zerstreuet schwärmen sie umher.
Die Hunde sind zerstreut;
sie schwärmen hin und her.
Tajo, tajo, tajo!
Der Jäger Ruf, der Hörner Klang
versammelt auf's neue sie.
Ho, ho, ho! Tajo! Ho, ho!
Mit doppeltem Eifer stürzt nun
der Haufe vereint auf die Fährte los.
Tajo, tajo, tajo!
Von seinen Feinden eingeholt,
an Mut und Kräften ganz erschöpft,
erliegt nun das schnelle Tier.
Sein nahes Ende kündigt an
des tönenden Erzes Jubellied,
der freudigen Jäger Siegeslaut.
Halali! Halali! Halali!
Den Tod des Hirsches kündigt an
des tönenden Erzes Jubellied,
der freudigen Jäger Siegeslaut.
Halali! Halali! Halali!

26. 合唱(村人と狩人たち)

聞け! このけたたましい轟きを
森中に響き渡っている!
なんてけたたましい音が
森中に轟いているのでしょうか!
かん高く鳴るのは、ホルンの響き
そして飢えた犬たちの吠える声
駆り立てられて鹿は逃げ
犬と騎手たちが後を追う
逃げる、逃げる
あんなに跳ねて!
犬と騎手たちは追いかける
おお、跳んで、跳ねる!
鹿は急に身を翻し
野原から茂みへと逃げ込んだ
犬たちは騙されて
群れは散り散りになってしまう
行く先を失って
集まろうと行ったり来たり
「タヨ! タヨ! タヨ!」
狩人の声とホルンの音が
犬たちを新たに呼び集める
「ハウ! ハウ! ハウ! タヨ! ハウ! ハウ!」
集結した一同は
いっそう興奮して鹿に迫る
「タヨ! タヨ! タヨ!」
敵に追いつかれ
勇気も力も尽き果たし
ついに鹿は倒れこむ
鹿の最期が迫り
喜びの歌をラッパが吹き鳴らせば
狩人達は沸いて勝どきを上げる
「ハハリ! ハハリ! ハハリ!」
鹿の最期を告げて
喜びの歌をラッパが吹き鳴らせば
狩人達は沸いて勝どきを上げる
「ハハリ! ハハリ! ハハリ!」

28. CHOR

Juchhe! Juchhe! Der Wein ist da;
die Tonnen sind gefüllt.
Nun laßt uns fröhlich sein,
und Juchhe! Juchhe! Juch!
aus vollem Halse schrei'n!
Laßt uns trinken!
Trinket, Brüder!
Laßt uns fröhlich sein!
Laßt uns singen!
Singet alle!
Laßt uns fröhlich sein!
Juchhe! Juchhe! Juch! Es lebe der Wein!
Es lebe das Land, wo er uns reift!
Es lebe das Faß, das ihn verwahrt!
Es lebe der Krug, woraus er fließt!
Juchhe! Juch! Es lebe der Wein!
Kommt, ihr Brüder,
füllt die Kannen,
leert die Becher,
laßt uns fröhlich sein!
Heida! Laßt uns fröhlich sein,
und Juchhe! Juchhe! Juch!
aus vollem Halse schrei'n.
Juchhe, Juch! Es lebe der Wein.
Nun tönen die Pfeifen
und wirbelt die Trommel,
hier kreischet die Fiedel,
da schnarret die Leier,
und dudelt der Bock.
Schon hüpfen die Kleinen,
und springen die Knaben.
Dort fliegen die Mädchen,
im Arme der Bursche,
den ländlichen Reih'n.
Heisa, hopsa, laßt uns hüpfen!
Ihr Brüder, kommt!
Heisa, hopsa, laßt uns springen!
Die Kannen füllt!

28. 合唱

ユッヘ! ユッヘ! ワインが出来た!
樽にもういっぱいだ
さあ楽しくやろう!
ユッヘ、ユッヘ、ユッフ!
どんちゃん騒ぎだ!
さあ飲むぞ、
飲もうぜ兄弟!
楽しくやろうぜ!
歌いましょうよ、
ほら、みんな!
楽しくね!
ユッヘ、ユッヘ、ユッフ! ワイン万歳!
ブドウを育む大地、万歳!
ワインを守る樽、万歳!
ワインが溢れる瓶、万歳!
ユッヘ、ユッヘ、ユッフ! ワイン万歳!
来いよ兄弟
グラスを満たせ
一気に空けろ
どんどん行こう!
ハイダ! さあさあ!
ユッヘ、ユッヘ、ユッフ!
さあ騒げ騒げ!
ユッヘ! ユッフ! ワイン万歳!
笛を吹いて
太鼓を叩きましょう
フィードルはキーキー
ライアーはギーギー鳴って
ボックパイプはブーブー唸る
小さい子は跳びはねて
少年たちは駆けまわる
あっちではお嬢ちゃんが
男の子と腕組んで
踊りの輪を飛び回る
ハイサ、ホプサ、踊りましょうよ!
さあ兄弟、こっちだ!
ハイサ、ホプサ! 飛んで跳ねて!
注いだ、注いだ!

Heisa, hopsa, laßt uns tanzen!
Die Becher leert!
Heida! Laßt uns fröhlich sein,
und Juchhe! Juchhe! Juch!
aus vollem Halse schrei'n!
Jauchzet, lärmet! Springet, tanzet!
Lachet, singet! Jauchzet, lärmet!
Heisa! Juchhe! Juchhe! Juch!
Hopsasa, heisasa, heisa, hei!
Nun fassen wir den letzten Krug!
Und singen dann im vollem Chor
dem freudenreichen Rebensaft.
Heisasa! Juch!
Es lebe der Wein, der edle Wein,
der Grillen und Harm verscheucht!
Sein Lob ertöne laut und hoch
in tausendfachem Jubelschall!
Heida, laßt uns fröhlich sein,
und Juchhe! Juchhe! Juch!
aus vollem Halse schrei'n!
Juch! Juch!

ハイサ、ホプサ！ リズムに乗って！
飲み干せ！飲み干せ！
ハイダ！愉快にやろう！
ユッヘ、ユッヘ、ユッフ！
声の限り叫べ！
叫べ、騒げ！跳ねろ、踊れ！
笑え、歌え！叫べ、騒げ！
ハイサ！ ユッヘ！ ユッヘ！ ユッフ！
ホブサッサ、ハイッサッサ、ハイサ、ハイ！
最後の瓶を開けるんだ！
さあ、喜ばしいワインを讃えて
声を合わせよう！
ハイサッサ！ユッフ！
ワイン万歳！貴いワイン！
悩みはすべて追い払え！
ワインを讃えて高らかに
何度でも喉がかわるまで！
ハイダ！ さあさあもっともっと！
ユッヘ、ユッヘ、ユッフ！
声の限り叫べ！
ユッフ！ユッフ！



京都混声合唱団

ご一緒に歌いませんか？

※初心者も適宜指導します

※入団オーディションはありません

■入団費 1000 円（学生無料）／月会費 3500 円（学生 1000 円）

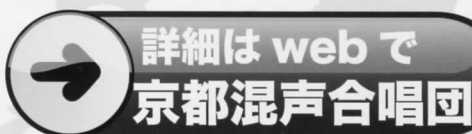
■練習時間：毎週金曜 19:00～21:15（18:30 より発声練習）

■練習場所：京都府薬剤師会館 2 階ホール（東大路五条上ル東側）

宗教大曲を中心に歌い続けて約 90 年。ハイクオリティーな音楽づくりを目指しながらも、家庭的な雰囲気が持ち味です。団員数は現在約 70 名。学生から 80 代まで年齢も職業もさまざまです。

次回演奏会は
2017 年 6 月 17 日（土）

アンサンブルホールムラタ
J.S. バッハ作曲 カンタータ
80 番「われらの神は堅き砦」
147 番「心と口と行いと生きざまもて」
指揮：小玉 晃
管弦楽：大阪チェンバーオーケストラ



◆練習見学大歓迎！◆

090-1226-1717

<http://kyou-kon.jp> mail: info2@kyou-kon.jp

第2部

J.B. ブラームス

ドイツ・レクイエム

和訳は「聖書 新共同訳-旧約聖書統編つき」(発行・日本聖書協会)による

I. CHOR

Selig sind, die da Leid tragen,
denn sie sollen getröstet werden.

Die mit Tränen säen,
werden mit Freuden ernten.
Sie gehen hin und weinen
und tragen edlen Samen,
und kommen mit Freuden
und bringen ihre Garben.

II. CHOR

Denn alles Fleisch es ist wie Gras
und alle Herrlichkeit des Menschen
wie des Grases Blumen.
Das Gras ist verdorret
und die Blume abgefallen.

So seid nun geduldig, lieben Brüder,
bis auf die Zukunft des Herrn.
Siehe ein Ackermann wartet
auf die köstliche Frucht der Erde
und ist geduldig darüber,
bis er empfahe den Morgenregen und Abendregen.
So seid nun geduldig.

Aber des Herrn Wort bleibt in Ewigkeit.

Die Erlöseten des Herrn werden wiederkommen
und gen Zion kommen mit Jauchzen;
ewige Freude wird über ihrem Haupte sein;
Freude und Wonne werden sie ergreifen
und Schmerz und Seufzen wird weg müssen.

第一楽章・合唱

悲しむ人々は、幸いである。
その人たちは慰められる。

(新約聖書・マタイによる福音書 5 章 4 節)

涙と共に種を蒔く人は
喜びの歌と共に刈り入れる。
種の袋を背負い、
泣きながら出て行った人は
束ねた穂を背負い
喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

(旧約聖書・詩篇 126 章 5-6 節)

第二楽章・合唱

「人は皆、草のようで
その華やかさはすべて、
草の花のようだ。
草は枯れ、
花は散る。」

(新約聖書・ペトロの手紙一 1 章 24 節)

兄弟たち、主が来られるときまで
忍耐しなさい。
農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで
忍耐しながら、
大地の尊い実りを
待つのです。
あなたがたも忍耐しなさい。

(新約聖書・ヤコブの手紙 5 章 7-8 節)

「しかし、主の言葉は永遠に変わることがない。」

(新約聖書・ペトロの手紙一 1 章 25 節)

主に贖われた人々は帰ってくる。
とこしえの喜びを先頭に立てて
喜び歌いつつシオンに帰り着く。
喜びと楽しみが彼らを迎え
嘆きと悲しみは逃げ去る。

(旧約聖書・イザヤ書 35 章 10 節)

III. BARITON UND CHOR

Herr, lehre doch mich,
daß ein Ende mit mir haben muß,
und mein Leben ein Ziel hat,
und ich davon muß.
Siehe, meine Tage sind
einer Hand breit vor dir,
und mein Leben ist wie nichts vor dir.

Ach, wie gar nichts sind alle Menschen,
die doch so sicher leben.
Sie gehen daher wie ein Schemen,
und machen ihnen viel vergebliche Unruhe;
sie sammeln und wissen nicht,
wer es kriegen wird.
Nun Herr, wes soll ich mich trösten?
Ich hoffe auf dich.

Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand
und keine Qual rühret sie an.

IV. CHOR

Wie lieblich sind deine Wohnungen,
Herr Zebaoth!
Meine Seele verlangt und sehnet sich
nach den Vorhöfen des Herrn;
mein Leib und Seele freuen sich
in dem lebendigen Gott.
Wohl denen, die in deinem Hause wohnen,
die loben dich immerdar.

V. SOPRAN UND CHOR

Ihr habt nun Traurigkeit;
aber ich will euch wiedersehen
und euer Herz soll sich freuen,
und eure Freude soll niemand von euch nehmen.

Ich will euch trösten,
wie einen seine Mutter tröstet.

第三楽章・バリトン独唱と合唱

「教えてください、主よ、
私の行く末を
私の生涯はどれ程のものか
いかに私がはかないものか、悟るように。」
御覧ください、与えられたこの生涯は
僅か、手の幅ほどのもの。
御前には、この人生も無に等しいのです。

(旧約聖書・詩篇 39 章 5-6 節)

ああ、人は確かに立っているようでも
すべて空しいもの。
ああ、人はただ影のように移ろうもの。
ああ、人は空しくあくせくし
だれの手に渡るとも知らずに
積み上げる。
では主よ、何に望みをかけたらよいのでしょうか。
私はあなたを待ち望みます。

(旧約聖書・詩篇 39 章 6-8 節)

神に従う人の魂は神の手で守られ
もはやいかなる責め苦も受けることはない。

(旧約聖書統編・知恵の書 3 章 1 節)

第四楽章・合唱

万軍の主よ、あなたのいますところは
どれほど愛されていることでしょう。
主の庭を慕って
私の魂は絶え入りそうです。
命の神に向かって、
私の身も心も叫びます
いかに幸いなことでしょう、あなたの家に住み、
まして、あなたを賛美することができるなら。

(旧約聖書・詩篇 84 章 2・3・5 節)

第五楽章・ソプラノ独唱と合唱

ところで、今はあなたがたも、悲しんでいる。
しかし、私は再びあなたがたと会い、
あなたがたは心から喜ぶことになる。
その喜びをあなたがたから奪い去る者はいない。

(新約聖書・ヨハネによる福音書 16 章 22 節)

母がその子を慰めるように
私はあなたたちを慰める。

(旧約聖書・イザヤ書 66 章 13 節)

Sehet mich an: Ich habe eine kleine Zeit
Mühe und Arbeit gehabt
und habe großen Trost funden.

Ich will euch trösten,
wie einen seine Mutter tröstet.

VI. BARITON UND CHOR

Denn wir haben hie keine bleibende Statt,
sondern die zukünftige suchen wir.

Siehe, ich sage euch ein Geheimnis:
Wir werden nicht alle entschlafen,
wir werden aber alle verwandelt werden;
und dasselbige plötzlich, in einem Augenblick,
zu der Zeit der letzten Posaune.
Denn es wird die Posaune schallen,
und die Toten werden auferstehen unverweslich
und wir werden verwandelt werden.

Dann wird erfüllet werden das Wort,
das geschrieben steht:

Der Tod ist verschlungen in den Sieg.
Tod, wo ist dein Stachel?
Hölle, wo ist dein Sieg?

Herr, du bist würdig
zu nehmen Preis und Ehre und Kraft,
denn du hast alle Dinge erschaffen,
und durch deinen Willen haben sie das Wesen
und sind geschaffen.

VII. CHOR

Selig sind die Toten,
die in dem Herren sterben, von nun an.
Ja, der Geist spricht,
daß sie ruhen von ihrer Arbeit;
denn ihre Werke folgen ihnen nach.

目を開いて見よ。わずかな努力で
私が多くの方を
見いだしたことを。

(旧約聖書統編・シラ書 [集会の書] 51 章 27 節)

母がその子を慰めるように
私はあなたたちを慰める。

(旧約聖書・イザヤ書 66 章 13 節)

第六楽章・バリトン独唱と合唱

私たちはこの地上に永続する都を持っておらず、
来るべき都を探し求めているのです。

(新約聖書・ヘブライ人への手紙 13 章 14 節)

私はあなたがたに神秘を告げます。
私たちは皆、眠りにつくわけではありません。
私たちは皆、今とは異なる状態に変えられます。
最後のラッパが鳴るとともに、
たちまち、一瞬のうちにです。
ラッパが鳴ると
死者は復活して朽ちない者とされ、
私たちは変えられます。

(新約聖書・コリントの信徒への手紙一 15 章 51-52 節)

(この朽ちるべきものが朽ちないものを着、
この死ぬべきものが死なないものを着るとき、)
次のように書かれている言葉が実現するのです。

(新約聖書・コリントの信徒への手紙一 15 章 54 節)

「死は勝利にのみ込まれた。
死よ、お前の勝利はどこにあるのか。
死よ、お前のとげはどこにあるのか。」

(新約聖書・コリントの信徒への手紙一 15 章 55 節)

「主よ、私たちの神よ、あなたこそ、
栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。
あなたは万物を造られ、
御心によって万物は存在し、
また創造されたからです。」

(新約聖書・ヨハネの黙示録 4 章 11 節)

第七楽章・合唱

(また、私は天からこう告げる声を聞いた。「書き記せ。)

『今から後、
主に結ばれて死ぬ人は幸いである』と。』
“霊” も言う。「然り。
彼らは労苦を解かれて、安らぎを得る。
その行いが報われるからである。』

(新約聖書・ヨハネの黙示録 14 章 13 節)

指揮／四季◆バリトン Akira Kodama

小玉 晃



京都市立芸術大学大学院修了後、渡奥。ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。リートをW. モーア、オペラをR. ニックラー、発声を宮廷歌手M. ニコロヴァに師事。在欧中リサイタルの他、多数の演奏会に出演バロック作品の歌唱法及び解釈を M.v. エグモントに、リート解釈をH. ホッター、E. アメリング、E. ヘフリガー、W. ベリー他に学ぶ。ベートーヴェン『第九』、バッハ『マタイ受難曲』、『ヨハネ受難曲』、ヘンデル『メサイア』、モーツァルト、ブラームス、フォーレの『レクイエム』他、ソリストを数多く務める。指揮者としての活動にも力を入れており、カンタータやオラトリオは自らオーケストラを指揮しながらソロを歌うなど活動の幅を広げている。また、理論に基づいた発声指導には定評があり、多方面から指導依頼も多い。J. S. G. 国際歌曲コンクール第1位。日本音楽コンクール入選。青山音楽賞、松方ホール音楽賞大賞他受賞。蔵田裕行氏に師事。関西二期会、日本シューベルト協会会員。MBS コンクール審査員。兵庫県立芸文センター合唱団、京響コーラス、パナソニック合唱団、混声合唱団 La Fenice、一万人の第九他指導者。大阪音楽大学、同志社女子大学講師。日本ドイツリート協会副会長。
<http://a-kodama.com>

四季◆指揮 Hiroyuki Kurata

蔵田 裕行



京都市立音楽短期大学卒業。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科独唱専攻終了。オーストリア政府給費留学生としてウィーンに留学。ウィーン国立音楽大学オペラ科、リート・オラトリオ科卒業。最優秀賞受賞。ウィーンアカデミー室内合唱団団員としてアン・デア・ウィーン劇場と契約。1976年ウィーン音楽祭にて話題公演ハイドン作曲「オルフェオとエウリディーチェ」オーストリア初演にソリストとして参加。指揮リチャード・ボニング、主演ニコライ・ゲッダ、ジョーン・サザーランド。

帰国後はシューベルトの三大歌曲を初め、「詩人の恋」「マゼローネのロマンス」等の大曲を中心とし古典から現代に至るドイツ歌曲での二十数回に及ぶリサイタル。「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「メサイア」「第九」等のオラトリオのソリストの他、多数の演奏会に出演。オペラは「フィガロの結婚」「魔笛」「コジ・ファン・トゥッテ」「ラ・ボエーム」「タンホイザー」等数多くの作品で主役を務めた他、「電話」「ルクレチヤ」「人買い太郎兵衛」「新説カチカチ山」等の室内オペラの出演も数多くその緻密な演技により得難い性格俳優との評価を得る。

1968年～2001年京都市立芸術大学での教育活動により多くの優秀な人材を育成。1996年～2000年同大学音楽学部長。1987年「藤堂音楽褒賞」2001年「京都市文化功労者」。京都市立芸術大学名誉教授。公益社団法人関西二期会名誉会長。

日本シューベルト協会顧問。財団法人東京二期会評議員。財団法人青山財団理事。1991年～2015年京都混声合唱団常任指揮者。毎年の定期演奏会の他、同合唱団の伝統である京都市交響楽団との共演で「天地創造」「四季」「口短調ミサ」「メサイア」「レクイエム（モーツァルト、ドヴォルザーク）」等のオラトリオ及び宗教曲の大曲を指揮。

ソプラノ ◆ Ayano Nonomura

野々村 彩乃



1991 年生まれ。下関出身、幼少期から歌が好きで下関少年少女合唱隊に入隊。広島音楽高校、大阪音楽大学にて声楽を学ぶ。その後東京二期会オペラ研修所に編入。大学 1 年時にベートーベン作曲「第九」のソプラノソリストを務める。東日本大震災チャリティコンサートを開東地区の学生と協力して開催。また伊勢神宮で奉納演奏などが在学時より積極的に演奏活動を行った。

コンクールでは日本の学生の登竜門である全日本学生音楽コンクール 2009 年高校の部と 2012 年大学の部史上初の 2 度の優勝。

選抜高校野球大会（甲子園）・2014 年プロ野球オールスター戦（甲子園）・社会人野球大会（東京ドーム）・アメリカンフットボール甲子園ボウル（甲子園）・東京都民体育大会（東京体育館）・富士ゼロックススーパーカップ 2015（日産スタジアム）・FIA 世界耐久選手権第 6 戦・富士 6 時間耐久レース（富士スピードウェイ）など式典での出演も多い。最近朝の連続テレビ小説「とと姉ちゃん」（2016 年 4 月放映）やテレビドラマ「紅白が生まれた日」（2015 年 3 月放映）などの挿入歌も担当する。

また 2016 年 3 月 29 日にはカーネギーホール（ニューヨーク）でのリサイタルを行うなど今後国際的にも活躍が期待されている。

今までに五十嵐美紀子、白石盾紀、マルギット・クラウスホーファー、田中由也に師事する。

バリトン ◆ Tsuyoshi Mibara

三原 剛



大阪芸術大学卒業。卒業時に演奏学科長賞受賞。第 2 2 回日伊コンコルソ金賞受賞。第 6 1 回日本音楽コンクール第 1 位、併せて増澤賞、福沢賞、木下賞、松下賞を受賞。第 4 回五島記念文化財団オペラ新人賞を受賞し、後に五島記念財団奨学生としてドイツ・ケルンに留学する。留学中ベルリンに於いてのバッハソロカンタータ 56 番の演奏はベルリナーポスト誌上にて絶賛された。ドイツ・ハーゲン歌劇場ヴェルディ「トロヴァトーレ」ルーナ伯爵役で大成功を収める。また、ヴィッテン、グンマースバッハ両歌劇場にも招聘され好評を博した。

第 7 回グローバル東敦子賞。平成 1 0 年度大阪府舞台芸術奨励賞。第 24 回藤堂頭一郎音楽褒賞などを受賞。平成 17 年度 大阪文化祭賞受賞。NHK「名曲アルバム」「ふるさとの歌にっぽんの歌」「ニューイヤーコンサート」などラジオ、テレビでも活躍。「木下牧子歌曲集」「アルブレヒト／読響 第九」「秋山／東響 ヤコブの梯子」「フルネ／都響 フォーレレクイエム」などの CD に加え、DVD「朝比奈／太フィル 第九」にも参加している。バリトン・カヴァリエーレ（騎士的バリトン）と評される豊で気品溢れる声と多彩な表現力で、今後の益々の活躍が期待されている。大阪芸術大学教授。

管弦楽 ◆ Kyoto Philharmonic Chamber Orchestra

京都フィルハーモニー室内合奏団

1972 年に結成。本年創立 44 年目を迎える。一人一人がソリストの個性派揃いのプロの合奏団。

定期公演、特別公演、室内楽コンサート、子供のためのクラシック入門コンサート等を主催すると同時に、各地ホール・教育委員会・鑑賞団体・テレビ・ラジオ・芸術祭等に多数出演している。「クオリティは高く、ステージは楽しく」というポリシーを持った京フィルは、クラシック音楽の他に様々なジャンルの音楽もセンスある編曲を施して演奏し、多くの聴衆を魅了している。国内外の演奏家や指揮者と共演する一方、狂言、文楽人形、津軽三味線、尺八等の日本の伝統芸能とのコラボレーションや、俳優、タレント、落語家、漫才師等の異分野との共演も積極的におこない、「挑戦する室内オーケストラ」と大好評を博している。また創立以来、活動の柱としている学校音楽観賞会では延べ 2900 校、170 万人以上の子どもたちに楽しい音楽を届け続けている。

京都市のパートナーシップ事業とタイアップするなど、積極的に聴衆の育成拡大に力を注いでいる。2000 年に特定非営利活動法人 (NPO) となる。2002 年 10 月イタリアツアーで好評を博す。平成 2 年度 藤堂音楽賞受賞。平成 14 年度 京都新聞大賞文化芸術賞受賞。社団法人日本オーケストラ連盟準会員。2014 年 4 月から音楽監督に齊藤一郎を迎える。

桑山 彩子



ピアニスト ◆ *Kei Tsujimoto*

辻本 圭



ピアニスト ◆ Akemi Yoshii

吉井 明美



合唱出演者

[illegible]



鳥瓜 夏花



鳥瓜 秋実

ART
kei
co., ltd

代表取締役 **佐々木 經二**

美術作品 制作販売

〒607-8466 京都市山科区上花山桜谷 1-2-301
tel, fax : 075-582-1358



台所

京風居食屋

てんや

お問い合わせ・ご予約

TEL.075-212-8585

FAX.075-212-8887

京都市中京区河原町通蛸薬師一筋上ル東入ル

営業時間 午後 5:00~午前 1:00

ディレクター

フォトグラファー

コピーライター

デザイナー

ARKADAS

PHOTO・COPY&DESIGN

企画・編集 集団 **アルカダッシュ**

多彩なクリエイターたちと
ネットワークを結び、
常に最適のチームを組んで
制作にあたります。



〒606-8184 京都市左京区一乗寺弘殿町 15-505
tel : 075-781-9348
e-mail : info@arkadas-jp.com

パンフレット

広報・販促物

書籍

その他

男声合唱団 エレイソンス

E l e i s o n s

合唱が好きで、楽しんでいる仲間を、随時募集中!

入団資格: 男性であること

詳しくは Web で! Facebook もごらんください

男声合唱団 Eleisions

検索



<http://www.eleisions.org>

団員募集

第12回演奏会

日時: 平成28年12月10日(土) 14:00 開演

場所: 京都コンサートホール

アンサンブルホールムラタ

曲目: 多田武彦「海に寄せる歌」

メンデルスゾーン「Vespergesang」

板谷 和彦 075-441-9711



京都中央信用金庫

みなさまのすぐとなりに
京都中央信用金庫があります。

本店/京都市下京区四条通烏丸西入ル

☎ 075(223) 2525

FAX 0120-201-580 (フリーダイヤル)

www.chushin.co.jp



京都混声合唱団 <http://kyou-kon.jp>

本日のご感想をぜひホームページへお寄せください。

お問い合わせフォームからコメントをお送りいただけます。

ご見学のお問い合わせもお待ちしています。